



二〇一四年二月四日印刷
二〇一四年二月十日発行

史
窓

第七号

第 71 号

目 次

論 文

名代について 告井 幸男 (1)

研究ノート

近世の暦統制と町触 梅田 千尋 (23)

唐代の外交政策における「謀略」とその背景 菅沼 愛語 (33)

清初吳三桂の反乱平定後の雲南経営について
—蔡毓榮と『籌滇十疏』を中心に— 森永 恭代 (51)

史料紹介

薬種商八幡屋北村又三郎文書
大和国宇陀郡松川薬種商細川治助文書
伊勢地域関係収集文書
..... 母利 美和、塩澤 美穂、柴田 祐希、鷺見 敦子 (65)

アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著
『高貴なる用語の解説』訳注 (5) 谷口淳一 編 (1)

集 報 (103)

2 0 1 4 ・ 2

京 都 女 子 大 学 史 学 会

KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

Journal of Historical Studies

SHISŌ

Vol. 71

February 2014

Contents

Article

TSUGEI Yukio, On Nashiro (名代) (1)

Research Notes

UMEDA Chihiro, Laws and Regulations on Calender Circulation in
Early Modern Japan (23)

SUGANUMA Aigo, Intrigues in the Diplomatic Policy of Tang and
Their Background (33)

MORINAGA Yasuyo, CaiYurong's (蔡毓榮) "Choudianshishu" (籌滇
十疏) and the Administration of Yunnan (雲南) after the Suppres-
sion of Wu Sangui's (吳三桂) Rebellion in the Early Qing Dynasty (51)

Historical Documents

MORI Yoshikazu, SHIOZAWA Miho, SHIBATA Yuki and WASHIMI
Atsuko, The Catalogue of Yakusyu-shyou Hachiman-ya Kitamura-
Matasaburo Monjo, 薬種商八幡屋北村又三郎文書, Yamato-no-
kuni Uda-gun Matsukawa Yakusyu-syou Hosokawa-Jisuke Monjo
大和国宇陀郡松川薬種商細川治助文書, Ise-chiiki Kannkei
Syuusyu Monjo 伊勢地域関係収集文書 (65)

TANIGUCHI Junichi(ed.), A Japanese Translation of Aḥmad Ibn Faḍl
Allāh al-'Umārī's *al-Ta'rif bi-al-muṣṭalah al-ṣarīf* (5) (1)

Miscellaneous (103)

THE ASSOCIATION OF HISTORICAL STUDIES

Kyoto Women's University, Kyoto, Japan

ISSN 0386-8931

京 都 女 子 大 学 史 学 会

彙 報

二〇一三年度 学会行事

春季学会旅行

三月二十五日(月)～二十六日(火)

伊勢・熊野

春季の学会旅行は三重県の伊勢神宮、和歌山県の熊野三社、熊野古道を訪れました。今回の旅行は例年よりも多くの学生にご参加いただき、大変賑やかな旅となりました。

伊勢神宮では、二十一年に一度の式年遷宮が行われており厳肅な雰囲気の中を参拝しました。伊勢神宮のすぐ近くにあるおかげ横丁で、伊勢名物の伊勢うどんや赤福などの食べ歩きやお土産を探す参加者の姿がみられました。

また、和歌山県では熊野速玉大社、那智大社、熊野本宮大社の熊野三社を参詣しました。三社は個別の自然崇拜に起源を持ち、特に一段の滝としては落差日本一を誇る那智の滝は神々しい姿でした。そして語り部さんと熊野古道を歩き、雄大な自然、歴史を思いながら熊野の魅力を感じる事ができました。

新入生歓迎会

四月一日(月) 新入生オリエンテーション

本年度は本学史学科に一四一名の新入生が入学しました。入学式前の史学科ガイダンスでは緊張した面持ちの学生が多かったように思います。その後、短い時間ではありましたが、史学会と役員を紹介をさせていただきました。新入生のみなさんと一緒に、新しい大学生活が送れますよう、史学会役員一同、新入生のみなさんのサポートをさせていただきます。

新入生のみなさんには、京都女子大学で学ぶことができる喜びと誇りを持って、四年間という長いように短い大学生活を満喫してほしいと思います。

新入生歓迎バスツアー

四月四日(木) 三井寺

新入生同士で交流を深めるために史学科では毎年恒例の新歓バスツアーを行っています。

本年度は四月四日に本願寺参拝が終わった後、史学科の先生方と新入生のみなさんと滋賀県にある三井寺を訪れました。三井寺は、平安時代に第五代天台座主・智証大師円珍和尚の卓越した個性によって天台別院として中興されました。近江八景の一つである「三井の晚鐘」でも知られています。

移動のバス内で行った自己紹介は、史学科ならではの歴史に関する話題や趣味の話などで大変盛り上がりしました。今後学びたい分野についても多くの学生が積極的にアピールしていました。共通点を持っている学生同士が、バスツアー終了後に話をしていく姿も見受けられ、このバスツアーで新たな出会いがあったのではないのでしょうか。

春季公開講座

五月二十四日(金) J三二〇教室にて

雅楽の政治学 本学准教授 告井 幸男
唐朝の対外政策と女性―和蕃公主の状況について―
神戸大学大学院人文科学研究科准教授 村井 恭子

夏季学会旅行

八月五日(月)～六日(火)

静岡、箱根

夏季の学会旅行は静岡県の日本平、久能山東照宮、神奈川県箱根園所、芦ノ湖、大涌谷を訪れました。移動中のバスではビンゴ大会や個性豊かな自己紹介が行われるなど、回生関係なく盛り上がり、大変賑やかな道中でした。

一日目は、日本平の山頂からロープウェイで久能山東照宮まで行きました。久能山東照宮の社殿は当時最高の建築技術、芸術が結集された権現造りの様式で目を見張るものがありました。

二日目は箱根園所跡・箱根園所資料館へ。建物だけでなく内部には園所の業務を再現した人形も置か

れ、江戸時代そのままに復元されていました。まるでタイムスリップしてきたかのように箱根の歴史的な魅力を感じる事ができました。海賊船での芦ノ湖クルージングは乗る前から期待に胸をふくませ、乗り込んでからは船内の様子や甲板に出て写真を撮る学生の姿が多く見受けられました。そして、大涌谷では今も火山活動が続く硫黄を含んだ火山ガスが絶えず噴き出しています。この温泉でゆでた黒卵はとても美味しいものでした。湧き上がる大地の力を感じ、歴史と自然を感じる旅になったかと思えます。

卒業論文中間発表

日本史 十月一日(火)～三日(木)
東洋史 十月三日(木)～四日(金)
西洋史 十月十五日(火)～十八日(金)

秋季公開講座

十一月十五日(金) J三二四教室にて

江戸時代京都の陰陽道役所 本学准教授 梅田 千尋
シャイロックはどこに住んでいたのか
―近世ヴェネツィアのゲットーとユダヤ人―

鹿児島大学准教授 藤内 哲也

専攻分け説明会

十二月十三日(金)

十二月十三日の昼休み、二回生以降の専門的な研究分野を決定するため、一回生を対象に専攻分け説明会が開かれました。先生方から各専攻の雰囲気と研究内容の説明がありました。最初のうちは今後の学生生活がある程度決まることもあり、みな気が張った面持でしたが、先生方のユーモア溢れるお話によって緊張がほぐれ、笑いあいの和やかな空気が流れ始めました。自身の専門研究を深められるように十分に吟味し、考慮した上で専攻を決定してもらいたいと思います。

卒業生予餞会

十二月二十日(金)

卒業論文の提出締切日、恒例の予餞会が行われました。本年度は岡崎の「豆狸」にお世話になり、先生方や多くの四回生が参加して、これまでの努力の日々を称え合い、賑やかな一時を過ごしました。

卒業論文は京都女子大学で過ごした四年間の総決算です。先生と相談を重ね、図書館に通って史料や論文と向き合い、友人たちと学生研究室で切磋琢磨するなど、卒業論文の執筆に真剣に取り組んできました。締切直前まで努力を惜しまずに取り組んできました。予餞会での達成感と安堵に満ちた笑顔は、充実した学生生活を表すものでした。

後輩たちも学生生活が実りあるものとなるように努力を重ね、全員が晴れ晴れした笑顔でこの日が迎えられることを祈ります。

二〇一三年度 史学科講義題目

講義

- 日本史概論A 告井准教授
- 日本史概論B 坂口教授
- 東洋史概論A 松井教授
- 東洋史概論B 檀上教授
- 西洋史概論A 桑山准教授
- 西洋史概論B 常松教授
- 考古学 梶川講師
- 日本美術史 山本講師
- 西洋美術史 竹浪講師
- 歴史地理学 愛宕教授
- 人文地理学 中村講師
- 自然地理学 木村講師
- 地誌学 赤石講師
- 史学外書講読I 古関講師
- 史学外書講読II 谷口教授

- 史学外書講読III 坂口教授
- ラテン語 桑山准教授・正田・佐野・平山講師
- 漢文 馬場・森永・菅沼講師

- 日本史演習I 梅田・告井・早鳥准教授
- 日本史演習II 綾村・坂口・母利教授、梅田・告井・早鳥准教授

- 史学基礎演習A 坂口・常松・松井・母利・山田教授
- 史学基礎演習B 谷口・檀上教授、梅田・桑山・告井・早鳥准教授

- 東洋史I 谷口・檀上教授、梅田・桑山・告井・早鳥准教授

日本史コース

特殊講義

- 基礎から学び直す東アジアの近現代史
- 京都の近代―その産業化と都市化をめぐる諸問題―

- 日本近世の身分と社会
- 書跡資料・概論

- 室町幕府とその時代
- 古代官人社会の歴史

- 古代寺院史研究
- 近世日本の宗教と習俗

- ―曆・神道・陰陽道―
- 近世日本の宗教と社会

- いけ花の文化史―連歌・茶の湯・能楽・聞香をまじえて―
- いけ花の文化史

- ―近代女子教育の視点から―
- 日本史講読I 坂口・母利教授、梅田准教授

講読

- 日本史入門演習 谷口・檀上・松井教授
- 日本史講読II 谷口・檀上・松井教授
- 日本史古文書 綾村・母利教授、早鳥准教授
- 日本史入門演習 綾村・坂口・母利教授、

- 告井・早鳥准教授、木本・吉住講師
- 佐竹・高井講師

- 日本史入門演習 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習I 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習II 谷口・檀上・松井教授

演習

- 日本史入門演習 綾村・坂口・母利教授、

特殊講義

- クシヤン王朝の勃興とガンダラ美術の誕生 小谷講師
- ガンダラ美術とキジル千仏洞壁画
- ―仏教説話の展開―
- 朝鮮古代史を考える(加耶史) 小谷講師
- 古代東北アジア史を考える(高句麗史) 田中講師

- イスラーム時代西アジア史 田中講師
- イスラーム時代イラン史 谷口教授
- 明王朝と東アジア―北虜南倭の世紀― 杉山講師
- 明清交替と東アジアの国際秩序 檀上教授
- 中国出土文字史料の検討 松井教授
- 東周王朝史 松井教授
- 中華帝国の礼と法 富谷講師
- 中華帝国の法と礼 富谷講師

- 東洋史講読I 檀上教授、角谷講師
- 東洋史講読II 松井教授
- 東洋史講読III 木田講師
- 東洋史講読IV 岡本講師

- 東洋史入門演習 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習I 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習II 谷口・檀上・松井教授

- 西洋史入門演習 谷口・檀上・松井教授
- 西洋史演習I 谷口・檀上・松井教授
- 西洋史演習II 谷口・檀上・松井教授

- 東洋史入門演習 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習I 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習II 谷口・檀上・松井教授

- 東洋史入門演習 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習I 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習II 谷口・檀上・松井教授

- 東洋史入門演習 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習I 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習II 谷口・檀上・松井教授

- 東洋史入門演習 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習I 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習II 谷口・檀上・松井教授

- 東洋史入門演習 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習I 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習II 谷口・檀上・松井教授

- 東洋史入門演習 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習I 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習II 谷口・檀上・松井教授

- 東洋史入門演習 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習I 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習II 谷口・檀上・松井教授

- 東洋史入門演習 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習I 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習II 谷口・檀上・松井教授

- 東洋史入門演習 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習I 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習II 谷口・檀上・松井教授

- 東洋史入門演習 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習I 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習II 谷口・檀上・松井教授

- 東洋史入門演習 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習I 谷口・檀上・松井教授
- 東洋史演習II 谷口・檀上・松井教授

アメリカの禁酒運動と禁酒法

常松教授

フラウイウス朝ローマ帝国

桑山准教授

ギリシアの世界史像

栗原講師

ヨーロッパ中世の王権と社会

山田教授

中世盛期・後期ヨーロッパ市場史研究

山田教授

近代フランス国民国家の形成

園屋講師

近代ドイツ・ナシヨナリズムの発展

園屋講師

近世ポランド・リトアニア共和国の国家と社会

小山講師

(1)―「貴族の共和国」の成立―

小山講師

近世ポーランド・リトアニア共和国の国家と社会

伊藤講師

(2)―「貴族の共和国」の変容と解体―

伊藤講師

18世紀のヨーロッパとアジア―「啓蒙の時代」の

王寺講師

哲学者たちの考察を手がかりに―

伊藤講師

末期ロシア帝国と戦争

伊藤講師

西洋史講読I

常松・山田教授

西洋史講読II

山田教授 青木講師

西洋史講読III

桑山准教授、福嶋講師

西洋史入門演習

常松・山田教授、桑山准教授

西洋史演習I

常松・山田教授、桑山准教授

西洋史演習II

常松・山田教授、桑山准教授

〔注〕Aは前期、Bは後期、特記していないものは前後期共通。ただし特殊については、同一担当者が前後期それぞれ別の題目を掲げている場合は、前期・後期の順に掲載し、科目名とA・Bの記号は省略した。

二〇一三年度 卒業論文題目

日本史専攻

赤井 蒔 表現の自由という名のロジック―公務員

員の政治活動の自由と憲法―

麻田 真礼 幕末期における新撰組結成意義

五十嵐 希 ロシア対策からみる伊勢漂流民示達

池嶋 美帆 「日蓮遺文紙背文書」に見える御家人

千葉氏の家政機関

泉本 玲佳 岸和田だんじり祭りの変遷とルート

稲垣里佳子 女大学にみる近世女性の生活規範

井上真梨子 戦時期の子どもと志願―学校・教師の指導とその関わり―

今里華奈子 司馬遼太郎と小説―司馬遼太郎の視点

岩瀬 陽子 豊臣秀頼の政治権力

魚谷 千晃 大学寮別曹の様相―勸学院を主として―

大岩 智美 石原莞爾の対米観―「最終戦争論」に至るまでの対米観を中心に―

大嶋 理花 近世京都における歌舞伎について

大平 裕実 葬送空間としての鳥辺山と鳥辺野の地域的変遷

大地 智子 京都守護職期の会津藩公用方

大槻美沙貴 豊臣秀吉の正室と側室―浅井茶々を中心―

川上亜都美 佐久間象山の世界認識

緒方百合子 近代日本における絵の評価―藤田嗣治の見た日本―

門谷菜穂野 遣唐留学生と古代文化―新羅の遣唐留学生との比較を中心に―

上條 未有 和宮下向時の松本藩の警衛について

河合なつみ 法隆寺領播磨国鶴荘直務支配の存続理由について

城戸佐和子 皇室と菊の関係

久下 春 鎌倉前期における六波羅探題の裁判機能―北条重時在任期について―

楠本 里帆 「大逆事件」の抗議運動が与えた影響―英国での運動を中心に―

小泉 灯子 長州藩民隊結成と地域性

小林さよ子 土岐氏の守護所と菩提寺の変遷

小嶺 萌実 なぜ日本は第二次世界大戦へ進んでいったか

坂元なな子

政策期を中心に― 武家故実の伝授―小笠原氏と鳥津氏大

追物故実を中心に― 藤原良房―その生涯にみる人物像と信仰心―

佐野ちさと 篤氏

佐原 梨紗 幕屋守護人としての紀伊国御家人湯浅

塩田 暁子 讃岐国造について―その展開と役割―

白井 翔子 近世庶民の伊勢信仰について

勢渡 尚巳 後南朝勢力と京都の公家

高崎 渉子 海軍職工の失業問題―一九二〇年代前半における新聞報道を中心に―

高下まどか 守護赤松氏・守護代宇野氏の播磨国支配―一宮伊和神社保護政策をめぐって―

高橋 知代 江戸時代の人々の化粧観と美人像

滝沢 智世 門跡の活動から見る戦国期將軍権威

田中 麻実 藤原仲麻呂―政權獲得から崩壊まで―

田中 美咲 帝人事件―高橋是清を中心に―

田辺 果 江戸の園芸文化について―植木屋・伊藤伊兵衛を中心に―

谷川 綾 紀州藩藩校「学習館」の設立意義

土川 真実 戦前期におけるセーラー制服の普及

友定めぐみ 撰関期の齋王卜定―その決定における政治性―

鳥飼 真希 土師氏改姓の背景

土井 麻美 中関白家が撰関政治に与えた影響

土井友里恵 藤原京における都城

中村早知恵 多摩地域農民層の行動基盤―土方歳三に与えた影響―

中森 麻貴

近世における子ども観と児童虐待

中山波瑠香 四国遍路における接待文化と土佐藩の

遍路対策

西田 萌衣 安芸国の使節遣行

野尻 岬 流出する浮世絵―万国博とパリの日本

平田 梨紗 妖怪の誕生

廣谷亜利沙 蘇我氏と王権 推古紀の記述を中心に―

藤田 諒子 慶応期における英国の対日外交と薩摩藩の動向
古野 美緒 安倍晴明の伝説―京と鎌倉を中心に―
松原 利夏 関ヶ原合戦における豊臣家臣団の動向
松藤 紀衣 幕末から明治へ、近代天皇制の変化―
木戸孝允の視点を参照に―

三石さゆり 江戸時代の地震書にみる地震観
三橋 茂恵 戦時における職業野球の運営とその位置考察―当時の新聞報道を中心に―

皆木 咲穂 織田政権の諸問題
三宅 佑果 滑稽新聞と新聞紙条例―風俗壊乱罪を中心に―

三好 美伶 承久の乱後の伊予国河野氏―復権の契機としての蒙古襲来―
村林 美佳 日本古代ガラスと典鑄司の実態
山本 千夏 近世京都における遊廓について―鳥原と祇園の関係性―

山本 真由 平安前中期の叙爵制度
吉本 友紀 「A級戦犯合祀」を推し進めたもの―会議録からみる政府の動向―

渡辺 悠 天武・持統朝における政治と宗教の関係性―道教的信仰を中心に―

東洋史専攻

石田 晴子 日中戦争期の中国における新聞の宣傳的側面
岩崎 未生 婦好についての一考察
太田 弓子 同姓同本不婚制と朝鮮社会―朱子学の受容とその展開―

岡村 夏希 僧侶の動向からみた洪武帝の対日政策
岡本 沙織 現代インドの女性問題を考える―婚姻を中心に―

榎木 芽衣 満洲国と実業教育
加藤左英美 清洲の留日学生と勵志会
北川 奈緒 西王母像の変遷

木下 道子 始皇帝の巡狩における山岳祭祀
木下裕可里 土木の変と孫皇太后―皇位継承問題を中心に―

柳山 典子 儒教思想からみる李氏朝鮮王妃
黒田 直 拓跋国家の成立とソグド人の軍人化―北朝末から唐高宗期を中心に―
後藤 優 戦国時代の青銅兵器製造過程における官僚制

相模 綾子 戦国趙における胡服騎射改革について
佐飛 祐里 モンゴル帝国初期のムスリム
瀬戸口 和 崑崙―天と地をつなぐもの―

田中 里奈 中国における火葬の一考察
土田 結以 明代における割股の流行とその実態
永田 弥生 OAUからAUへ―持続的平和構築への挑戦―

野本祐里子 冊命儀礼における賜与物について
福井 美穂 明朝の琉球優遇政策の目的とその実態
松岡 明奈 第二次大戦末のソ連の侵攻と在留邦人
水島 佑美 靈石王氏の考察

村重 美帆 マラヤの複合民族国家の形成―イギリ
ス植民地時代を中心に―
村田 彩佳 太平天国における儒教思想―天朝田畝制度を中心に―

盛田 栄那 唐・吐蕃会盟の碑と国境

西洋史専攻

雨森はづき 古代ギリシア人と書物―個人文庫と王立図書館―
池田 愛由 一五・一六世紀ドイツの租税問題と連邦的發展

池田 裕香 ビザンツ皇帝ヨハネス・カンタクゼノス
植田真知子 一九世紀パリ万国博覧会と開花するパリ

内山 由季 民主政期アテナイのメトイコイ女性
梅野 沙織 プルゴ―ニュ公国の發展とフランス王権

梅原 瑞希 第二帝政期におけるパリ都市改造
遠藤 真紀 バイエルン国王ルートヴィヒ2世―現実を生きた夢想王―
大倉 千明 シュトゥラーヌブルクにおける仮信条協

大橋 歩美 定の受諾と統治権力
日系アメリカ人一世と二世の世代間のギャップ―排日運動・強制収容政策を中心に―

岡崎 由依 古代エジプトの王権―初期王朝時代から第一中間期まで―
岡本 有貴 女神アルテミスとその信仰―女性との関わりについて―

荻山つぐみ 二〇世紀アイルランドの歩み
尾端 優紀 ギリシア・ローマ世界からみたケルト人とその実態―ポリュビオスとパウサニアスを中心に―

角 友紀子 ガヴァネス問題
川口あゆみ 冷戦期アメリカの極東外交
黒川 実記 近世フランスのイエズス会と学校教育
黒瀬真由美 チェコ地方の国家形成とプシエミスル朝

児玉 千佳 エリザベス一世の宗教改革と地方教会―教会巡察を中心に―
佐伯菜佑香 『ギルガメシュ叙事詩』から『旧約聖書』へ―古代オリエント史から見る洪水神話の変容―

齋田 香 中世初期ヨーロッパ社会の聖遺物
高垣 美穂 一八世紀フランス社会の治安維持―マレショ―セ改革を中心に―

高桑 美紗 ローマ帝国における音楽実践の發展―劇場音楽の観点から―
武市 萌美 南アフリカ―アフリカーナーとナシヨナリズム―

網田 理佳 南北戦争後の解放奴隷と労働
津野 夏希 コムニダ―デス反乱からみる王権と都市

坪井はるい パリの民衆運動―思想・行動の考察―
戸奈真由美 竜の変容―メソポタミア地方から西アジアへ―

富澤 衣香 ヘレニズム期スパルタの国家再興―ナビスによる政策を中心に―
中田 汐美 教皇によるローマの都市計画

中田 静香 古代ローマにおける教育
中野 遥愛 法による帝国統一の試み―中世ドイツにおける司法改革―

中村 絢美 一四・一五世紀低地地方における中央集権と地方特権
西峯 成美 フラインツェ共和国と聖母信仰―オルサンミケレ聖母同信会を中心に―

萩尾 真衣 スコットランド初期宗教改革(一五六〇年代―一五九〇年代)―「神の国」の理想と布教活動の実態について―

長谷川みずほ 一八世紀プロイセン王国の興隆―軍隊を中心に―

林 純菜 ローマ共和政末期の権力構造―ポンペイウスと東方政策から―

藤田 貴恵 オシリス信仰とミイラ
前田はるか ナチス・ドイツのホロコースト、安楽死計画―教会の対応を中心に―

牧村 沙紀 中世後期スペインの反ユダヤ運動とコンペルン

万代 茜 三つの視点から見たネロ評価
水野 阿也 古代ローマ帝政初期における食糧供給―制度の目的と民衆生活への影響―

宮河 詩織 スウェーデンの独立―カルマル連合からの離脱―
向谷ゆう子 「ドムス・アウグスタ」におけるリウエアの役割

村田有里奈 ポーランド・リトアニア共和国における「宗教的寛容」―メノー派の受け入れをめぐる―

森本 奏恵 エリザベス一世―中庸としての女王―
弥源治夕紀 ベトナム戦争とアメリカ社会

二〇一三年度 大学院文学研究科

史学専攻博士前期(修士) 課程講義題目

特論

撰関期貴族社会の諸様相

告井准教授

平安時代の政治と儀式 告井准教授
歴史資料関係論文の分析 綾村教授
中世―織豊期の基本的文献研究 早鳥准教授
中世―織豊期研究の基本的文献を読む 早鳥准教授

高橋秀直 『幕末維新の政治と社会』を読む 母利教授
笠谷和比古 『近世武家社会の政治構造』を読む 母利教授

鶴見良行著 『ナマコの眼』を読む 坂口教授
地域の記録を読む 小林講師
古文書の理解と読解 河内講師

周王朝の国制研究 松井教授
元代沿海地域社会の諸問題 檀上教授
明代沿海地域社会の諸問題 檀上教授

中国近世史料1―宋と西夏の史料講読― 木田講師
中国近世史料2―遼・金・元史料の講読― 木田講師

前近代アラブ地域のウラマー 谷口教授
イスラーム文化における口承の尊重 谷口教授
※中華帝国の礼と法 富谷講師
※中華帝国の法と礼 富谷講師

※一八世紀のヨーロッパとアジア―「啓蒙の時代」の哲学者たちの考察を手がかりに― 王寺講師
※末期ロシア帝国と戦争 伊藤講師
ギリシア文化圏とローマ帝国 桑山准教授

フランク王国社会経済論―市場を中心に― 山田教授
現代史の開幕―1920年代のアメリカ政治を中心に― 常松教授
1920年代のアメリカ社会 常松教授

※近世ポーランド・リトアニアの国家・社会・文化 (1)―「貴族の共和国」の成立― 小山講師
※近世ポーランド・リトアニアの国家・社会・文化 (2)―「貴族の共和国」の変容と解体― 小山講師

小山講師 (※は学部共通)

演習

日本史演習Ⅰ・Ⅱ 告井准教授
日本史演習Ⅲ・Ⅳ 綾村教授
日本史演習Ⅴ・Ⅵ 母利教授
日本史演習Ⅶ・Ⅷ 梅田准教授
日本史演習Ⅸ・Ⅹ 早鳥准教授
西洋史演習Ⅰ・Ⅱ 桑山准教授
西洋史演習Ⅲ・Ⅳ 山田教授
西洋史演習Ⅴ・Ⅵ 常松教授

〔注〕特論については、題目が示されている科目は題目を掲げ、示されていない場合は科目名を記した同一担当者が前後期それぞれ別の題目を掲げている場合は、前期・後期の順に掲載した。その他は前後期共通。

史学専攻博士後期課程講義題目

特殊研究

日本史特殊研究Ⅱ 綾村教授
日本史特殊研究Ⅳ 坂口教授
東洋史特殊研究Ⅳ 松井教授
西洋史特殊研究Ⅰ 桑山准教授
研究指導 綾村・坂口・松井教授、桑山准教授

二〇一三年度 博士論文題目

前田 尚美 明代皇后・皇太后の政治的地位

二〇一三年度 修士論文題目

小南 沙月 平安前期における入唐僧の仏典将来―慈覚大師円仁の目録を中心に―
竹内 公美 鎌倉仏教における律僧の躍動―興正菩薩叡尊と西大寺流を中心に―
林原由美子 皇位継承儀礼の変遷にみる出雲の「特殊性」

仲村 桐子 「イギリス人」の形成と帝国意識
丸橋 理沙 十九世紀フランスの地方社会と教育

—リヨン地方の修道会学校を中心に—
 村松 知香 王政復古期ロンドンのコーヒーハウス
 福羽 麻実 古代ギリシアにおけるハデス信仰—
 ルートンの登場とその影響—
 星野 宏実 プトレマイオス朝エジプトにおける王
 権概念

二〇一三年度 大学院行事

研究発表会・その他

四月 二十四日

卒業論文発表会

『時慶記』からみる娘と父親の関係性

M1 塩澤 美穂

中近世移行期の「公儀」について

—大友氏・毛利氏の事例を中心に—

M1 柴田 祐希

救世観音信仰とその意義

M1 松本 恵美

中世イングランドの大学と都市—オックスフォードとケンブリッジを中心—

M1 三谷真里奈

心に—

四月 二十四日 大学院歓迎会（三条苑にて）

七月 十一・十二日 春期例会

東晋末期の権力構造—東府と西省を中心に—
 D1 織田めぐみ

7世紀〜8世紀の唐の外交について
 本学非常勤講師 菅沼 愛語

十月 十八日 秋期例会

明末の風俗と奢侈肯定論

研修者 水上 知美

十一月 六・七・十一日 修士論文中間発表会

平安期における入唐僧の仏典将来—慈

覚大師円仁の目録を中心に—

M2 小南 沙月

鎌倉期の仏教—禪律仏教論と興正菩薩

叡尊を中心に—

M2 竹内 公美

出雲の「特殊性」成立考—皇位継承儀

礼と天武嫡系皇統—

M2 林原由美子

二つの大英帝国—後期ヴィクトリア朝

におけるジェントルマンと大衆の帝

国認識の差異—

M2 仲村 桐子

十九世紀フランスの地方社会と教育

—リヨン地方の修道会学校を中心に—

M2 丸橋 理沙

王政復古期のコーヒーハウス

M2 村松 知香

古代ギリシアにおけるハデス信仰—

ルートンの登場と影響—

M2 福羽 麻実

プトレマイオス朝エジプトにおける王

権認識

M2 星野 宏実

研究室だより

今年度、史学科は一四一名の新入生を迎え入れました。二回生一四六名、三回生一三三名、四回生一五二名、五回生以上十七名を加えて、史学科の全学部生は計五八九名となっています。また大学院生は、博士前期課程が一回生四名、二回生九名、後期課程が一回生一名、二回生二名、三回生二名の計十八名となり、さらに特別研修者二名、研修者三名がこれに加わります。

一月に実施した新入生の専攻希望調査では、若干の未確定者を除けば、日本史専攻希望が七十五名、東洋史三十四名、西洋史三十一名という結果となり、日本史六名、東洋史三名、西洋史三名の教員数にな

かなかうまく対応する学生数となりました。新入生全員が日本史・東洋史・西洋史の概論、さらには史学基礎演習を受講したことによって、それまで知らなかった様々な事柄に興味をもつようになり、その結果がこのような専攻希望の学生数につながったのだと思います。それぞれの専攻を希望した新二回生をうけ入れた後、各専攻の入門演習、演習I・II、講読などを通じて、学生達にいかにか充実した学習環境を提供するか、我々教員に課された責務となります。

昨年度末をもって柴田純教授と瀧浪貞子教授が定年退職されたことは既にご案内のことと思いますが、両教授に代わって新たに日本古代史の告井幸男准教授、日本近世史の梅田千尋准教授を研究室の一員としてお迎えしました。両先生には春季と秋季の公開講座でお話しいただきましたので、「京女史学会の一年」に講演時の両先生の写真が掲載されています。また今回の人事異動にもない、谷口・柴田両先生の研究室を仕切っていた壁が撤去され、統合された両研究室はJ三〇三演習室に生まれ変わりました。谷口教授は元瀧浪研究室に引越されましたが、いまだにJ三〇三から柴田先生が、現谷口研究室から瀧浪先生がドアを開けて出てこられるような錯覚に襲われることがあります。

今年度も四月の新入生歓迎バスツアーに始まり、春季・秋季の公開講座、学会旅行、卒業論文の中間発表会、予餞会など、史学会委員の方々には本当にお世話になりました。委員のバトンは三回生から二回生へと引き継がれ、三回生の委員は卒論提出に向けての最後の一年を迎えることとなります。これまでのご尽力に感謝するとともに、これから一年間の頑張り期待您的と思います。

(二月十六日記 史学科主任 松井嘉徳)

学会委員

二〇一三年度の学会運営に協力して下さった学会委員は次の方々でした。例年通り史学会諸行事の企

画から運営まで、全般に渡って支えていただきました。篤くお礼申し上げます。

委員長 日本史三回生 田中 彩子
副委員長 西洋史三回生 平岩 彩名
会 計 日本史三回生 土谷 彩香
書 記 日本史三回生 岩瀬 加奈
広 報 東洋史三回生 岡田 后可
日本史三回生 粉川 祥子
日本史二回生 高橋 優
日本史二回生 津村 有彩
西洋史二回生 濱垣 桃子
日本史二回生 山下 千晶
東洋史二回生 山田 温子
一回生 秋山 栞穂
一回生 賀子 夏帆
一回生 後藤 真実
一回生 田村 眞結
一回生 松田ひかる
一回生 武藤 真由

京都女子大学史学会会則

(二〇〇三年三月二十日制定)

(名称) 本会は、京都女子大学史学会と称する。

(事務局) 本会の事務局は、京都女子大学文学部史学研究室に置く。

(目的) 本会は、史学に関する諸問題を研究し、もって学会に寄与することを目的とする。

(役員) 本会は、京都女子大学文学部史学科の専任教員および本会が特に認めた者をもって組織する。

(事業) 本誌への投稿資格者は、本会会員および

第五条 本会は、第三条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 1 機関誌『史窓』の発行。
- 2 講演会、研究発表会。
- 3 その他必要な事業。

(代表)

第六条 本会代表を一名置く。代表は会員の中から互選し、任期は一年間とする。ただし、再任を妨げない。

(委員会)

第七条 『史窓』の発行のために、『史窓』編集委員会を置く。委員は会員の中から互選し、任期は一年間とする。ただし、再任を妨げない。その構成員は以下のとおりとする。

- 1 編集委員長 一名
- 2 編集委員 若干名

(総会)

第八条 本会の総会は、一年に一回以上開催し、本会の重要事項を議決する。

(事業費)

第九条 本会の事業費は、京都女子大学学会・機関誌刊行経費、その他をもつてこれに当てる。

(会則の改廃)

第十条 この会則の改廃は、総会の議決を経て実施する。

附則 この会則は、二〇〇三年四月一日より施行する。

『史窓』に関する規約

第一条 京都女子大学史学会(以下「本会」という)は、機関誌として『史窓』(以下「本誌」という)を刊行する。

第二条 本誌への投稿資格者は、本会会員および

『史窓』編集委員会が特に認めた者とする。

第三条 原稿は、未発表のものに限る。

第四条 本誌に掲載された作品の著作権は、本会に属する。

第五条 執筆要項などの細則は、別に定める。

第六条 この規定の改廃は、編集委員会の議決を経て、総会の承認を経て実施する。

附則 この規約は、二〇〇三年四月一日より施行する。

編集後記

『史窓』第七十一号をお届けします。本号では、本年度から史学科専任教員とられた告井・梅田氏から、着任後の多忙な中、意欲的な論考を寄せていただきました。史学科の新しい顔として、これからは、博士号取得後も、意欲的に研究を進められ、着実な研究成果を上げておられます。谷口氏の訳注は、二〇〇七年度から開始された「イスラーム世界における書記とその伝統」研究会での、学外研究者との共同研究会における緻密な輪読成果の一端です。本号で五回目を数えますが、すでに延べ一八〇頁を超えており、地道な研究活動のためです。本学所蔵古文書の目録化は、母利の国内研修等の事情により二年間休止していましたが、本年度は大学院生塩澤・柴田氏、大学院研修者の鷺見氏の参加を得て、薬種商関係史料、伊勢地域関係史料の調査整理の成果をまとめることができました。今後も積極的なご寄稿をお願いします。

なお、昨年度の第七十号から、『史窓』の全文が京都女子大学学術情報リポジトリ(京女AIR)で公開されております。(母利 美和)

執筆者紹介

告井 幸男 本学准教授
梅田 千尋 本学准教授
菅沼 愛語 本学非常勤講師
森永 恭代 本学非常勤講師
母利 美和 本学教授
塩澤 美穂 本学大学院博士課程前期
柴田 祐希 本学大学院博士課程前期
鷺見 敦子 本学大学院研修者
谷口 淳一 本学教授

編集委員

母利 美和 (委員長)
谷口 淳一
桑山 由文
早島 大祐

史窓 第71号

二〇一四年二月四日 印刷
二〇一四年二月十日 発行

編集 『史窓』編集委員会

発行 京都女子大学史学会

京都市東山区今熊野北日吉町三五
京都女子大学文学部史学研究室内
☎(〇七五) 五三一―九一〇〇
代表者 松井 嘉徳

印刷 株式会社図書同朋 舎

京都市下京区中堂寺鍵田町二
☎(〇七五) 三六一―九一二一

※掲載内容の著作権は、京都女子大学史学会に帰属
します。